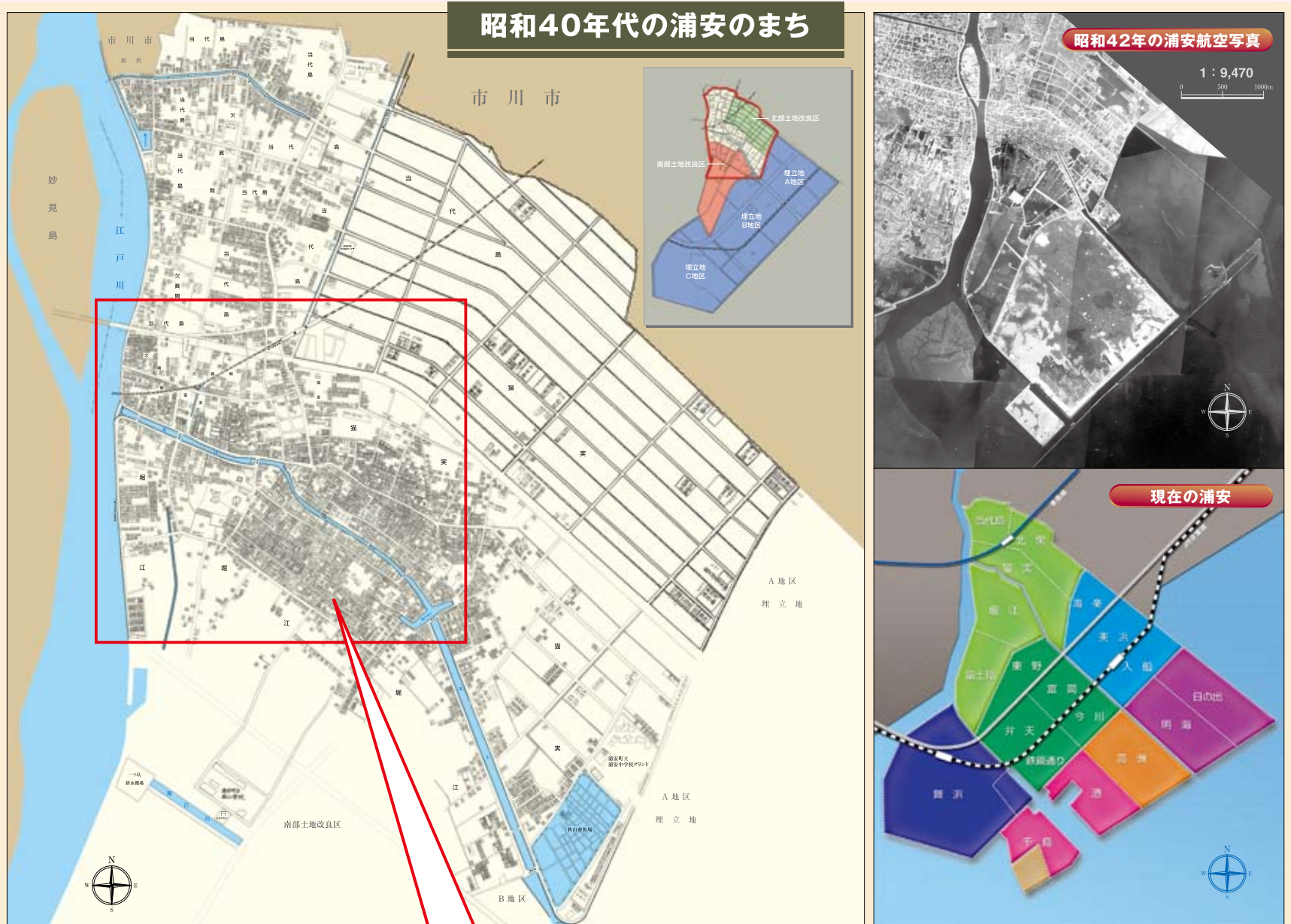


むかし懐かし うらやす話

昭和37年に漁業権を一部放棄して、海面埋め立てが始まった昭和40年代。大型の商業施設やコンビニエンスストアなどがなかった時代に、浦安で一番にぎやかだった通りが、一番通りや堀江銀座などと呼ばれていた「フラワー通り」です。今回は、当時の浦安にタイムスリップし、フラワー通り周辺を散策して、浦安の人々の生活をのぞいてみましょう。



浦安橋魚市場

浦安町役場庁舎

にぎやか商店街

浦安映画劇場

屋号

駄菓子屋さん

東学寺

紙芝居屋さん
「ぴーちゃん」

浦安橋魚市場

昭和初期に、浦安の魚貝類商が、堀江に開いた市が前身で、その後、浦安橋の近くに「浦安橋魚市場」が開かれました。昭和46年には、北栄に「浦安魚市場総合食品センター」として移転し、現在に至ります。

「浦安橋魚市場」の写真には、自転車やバイクなどの荷台に魚貝類を積む「行商」の姿が見られます。浦安の行商は、近くは行徳、葛西、新小岩など、遠くは神楽坂、多摩、川越など、日帰りで行商に出かけていました。



浦安町役場庁舎

浦安町役場庁舎は、明治42年9月からの町制施行に伴い、現在の堀江4丁目に建設することになりました。明治44年3月16日に竣工したこの町役場庁舎は、瓦葺平屋建和洋折衷作造で、当時としては極めてモダンな建物でした。

それ以来、明治・大正時代を経て、昭和の半ば過ぎまで、この庁舎で行政を執行してきました。

今では、町役場庁舎の跡地には、記念の石碑が建っています。浦安の歴史巡りのルートに、この石碑見学を入れるのもおもしろいと思います。

モダンな庁舎
(大正初期)



増改築後の
昭和30年
ころの庁舎



にぎやか商店街

この時代、魚は魚屋さん、米は米屋さん、衣類は呉服屋さんでないと手に入りませんでした。フラワー通りは、その専門店が集まっていたにぎやかな通りでした。日常生活に必要なものは、ここでほとんどそろえることができました。さらに、日用品のお店だけでなく、映画館もあり、江戸川区からも人が集まる通りでした。

買い物の際は、買い物かごを持っていくのが定番でした。現在のエコバッグと通じるものがありますね。



浦安映画劇場

ここは映画館。夏休みや冬休みなどに、こどもたちが楽しみにしていたのが「東映まんがまつり」。「ゴジラ」や「ガメラ」など、人気の映画を見るために、映画館の前には行列ができました。

こどもたちは館内で買ったラムネやパンなどをほおぼりながら、映画を楽しみました。当時の映画館では、席の一番うしろの近くに映写機を置いていたため、なかには映写機のレンズに手をかざして、画像を遮るいたずらをするこどももいたそうです。



屋号

屋号は、その家を表すものです。このなかに、職業やご先祖の情報などがつまっています。

同じ名字や血統の家々が多く、相互を呼び分ける必要があった浦安では、多くの屋号が使われ、今もそれが引き継がれている所が多くあります。例えば、写真の「みしんや」さん。これは、服屋さんを表すそうです。

また、「宮前」「大松」「角屋」などの屋号は、位置や方向、目印が由来でつけられたものです。ほかに、家の構造・材質にちなんだものや、ある時代の家の主人の名を呼んだもの、職業によるものなど、由来はさまざまです。

おもしろい屋号では、「おはよう」「のんき」「なまこ」などがあります。それぞれ、何の職業か、どんな由来なのかを想像してみるのも楽しそうです。



駄菓子屋さん

堀江のこどもたちを夢中にさせていたのは、重兵衛商店という駄菓子屋さんでした。うらやすのこどもたちは、放課後、一度、家に帰ってお小遣いを握りしめ、うらやすの昔のおやつ「ぼったら」を食べたり、駄菓子屋さんで「すもも」や「フルーツ牛乳」、「梅ジャム」などを買って食べたりしました。なかでも、あんこをまるめ、きな粉をまぶした「あんこ玉」は、くじ引きの要素もあり、人気がありました。あんこ玉を割り、中に砂糖を丸めた玉が出てくると「当たり」で、直径5センチメートルくらいの大きなあんこ玉を賞品としてもらえたのです。



紙芝居屋さん 「ピーちゃん」

こどもたちの人気者だったのが、「ピーちゃん」と呼ばれていた紙芝居屋のおじさん。笛を吹きながら自転車でやってきて、路地で拍子木を鳴らし、こどもたちを集め、駄菓子を買ったら、紙芝居のはじまりはじまり。迫力のある口上で、観客を紙芝居の世界に誘います。なかでも人気だったのが「黄金バット」。少し怖い話の多かった「ピーちゃん」の紙芝居は、娯楽が少なかった時代、こどもたちの最高の楽しみのひとつでした。

そして、紙芝居と同じくらい、人気だったのが「ピーちゃん」が出題するクイズ。これに正解すると、ソースせんべいや水あめなどの駄菓子がただでもらえました。



東学寺

フラワー通りを見守るように、通りの出入り口になっている「東学寺」は、室町時代の終わりに建てられたといわれています。かつては、毎月8日と12日の薬師様の縁日でにぎわいました。こどもたちの楽しみは、屋台です。浦安名物の卵フライやソースせんべいなどを食べたり、1等賞に豪華商品が当たる「三角くじ」などで遊んだりして、こどもたちは縁日を楽しみました。

